

## Appendix C3 Sample Image of “Lexical Profiling” for Business Core Verbs -----

No. 001

<b>thank</b> /θæŋk/	
意味	[他動詞] (人に) 感謝する・礼を述べる
頻度	3361 /m
使用度	2455
K 指数	10275
誤用率	3.89 %
	[LOW-----HIGH---VH] [LOW-----HIGH---VH]
項構造	<b>thank [X_Y (for Z)]</b> X: 動作主 (agent) = 主語_S -: 動作・行為   発話行為 (action   illocutionary act) = 動詞_V Y: 行為の被経験者 (experiencer) = 動詞の目的語_O <sub>1</sub> Z: 感謝の理由となる行為・事柄 (reason) = 前置詞 for の目的語_O <sub>2</sub>
文型	<b>(S)+ V+O<sub>1</sub>+ (for O<sub>2</sub>)</b> ↓ S = [誰が who] → 省略可 (解説 1) V = [thank] O <sub>1</sub> = [誰に whom] for O <sub>2</sub> = [何を・何に対して for what] → O <sub>2</sub> は名詞・名詞句または動名詞・動名詞句 (解説 3)
用例 (KWIC)	1. <b>Thank</b> you. 2. <b>Thank</b> you very much for your letter of April 1. 3. <b>Thank</b> you for writing to us about our new products. 4. We wish to <b>thank</b> Mr. Yamada for his cooperation in this matter.
誤用例	1. Thank you for <i>your</i> attending the party. → (○) Thank you for attending the party. 2. I want to thank for your help. → (○) I want to thank <i>you</i> for your help. 3. Thank you for your cooperation <i>in advance</i> . → (○) Thank you <i>in advance</i> for your cooperation.

### 【ポイント解説】

- ビジネス文書ではおもに Thank you for (doing) sth. の形で用いる。We/I thank you... のように主語を加えるのは堅苦しい表現で、通常は主語を省略する (省略された場合は常に話者が主語であると解釈される)。フォーマルな文脈ではしばしば We/I wish to [would like to] thank you for... のように助

動詞相当語句を伴って使われる。

- 用例のほとんどは現在形での使用例で、過去形や過去分詞形はごくまれにしか見られない。現在分詞形は I sent a brief email message to Mr. Yamada yesterday, *thanking* him for his help. のような後置型分詞構文の形でしばしば使われる。
- for 以下には名詞 (用例 2)、または動名詞 (用例 3) のいずれも可。ただし、その内容が文脈から明らかな場合や、特に言明する必要のない場合は for 以下はしばしば省略される (例文 1)。
- Thank you for *your* attending the party. のように動名詞の前に *your* を加えるのは原則として不可。この構文では主動詞の目的語 (*you*) が動名詞 (attending) の意味上の主語であることが前提とされており、この前提が守られている場合にはわざわざ *your* attending とはしない。ただし、主動詞の目的語と動名詞の意味上の主語が異なる場合は I wish to thank *you* for his attending the party. のようにすることができる (この場合、I wish to thank you for his attendance at the party. とするのが普通)。
- 用例 4 のようにフォーマルなトーンで書くときは thank を名詞形 (通例、複数形) で使うことが多い。e.g. We wish to express our thanks to Mr. Yamada for his cooperation.
- 誤用例 2 は動詞の目的語が欠如している。thank は目的語を義務的に必要とする動詞であり、かつ目的語は常に「人」であることを前提とする。したがって、I want to thank *your* help. のように、人以外の目的語を直接にとることはできない。
- 誤用例 3 は「ご協力にあらかじめお礼を申し述べます」の意味だが、例文では「あらかじめのご協力にお礼を申し述べます」という意味になってしまう。修飾語句の位置に関する典型的な誤用例である。

## Exercise

【練習問題】 次の和文を英訳しなさい。 -----

- 4月1日付のお手紙ありがとうございました。
- 弊社新製品に関するお手紙ありがとうございました。
- 山田氏のご協力に感謝させていただきます。
- パーティにご参加 (attend) いただきありがとうございました。

## No. 003

<b>appreciate</b> /əˈpriːʃieɪt/	
意味①	[他動詞] (物事に) 感謝する、(物事を) ありがたく思う
意味②	[他動詞] (物事の価値などを) 正しく認識する; (人の気持ちや事態の重要性などを) よく理解する、わかる
意味③	[自動詞] (値段や価値などが) 高騰する
頻度	1842 /m
使用度	1216
K 指数	4687
誤用率	19.85 %
	[LOW-----HIGH--VH]
	現在形
	過去形
	-ing
	P.P.
	[LOW-----HIGH--VH]
項構造	<b>appreciate</b> [X_Y] 他動詞①② X: 動作主 (agent) = 主語_S --: 動作・行為   発話行為 (action = illocutionary act) = 動詞_V Y: 感謝の対象となる事柄 (theme) = 目的語_O <b>appreciate</b> [X_] 自動詞③ X: 主題 (theme) = 主語_S --: プロセス   変化 (process   change) = 動詞_V
文型 I	<b>S+V+O</b> ↓ <b>S</b> = [誰が who] <b>V</b> = [appreciate ①②] <b>O</b> = [何を what] → 名詞・名詞句または動名詞句 (解説 2)
文型 II	<b>S+MD+V+it+if-clause</b> ↓ <b>S</b> = [誰が who] <b>MD</b> = 仮定法丁寧用法の助動詞 (would または should) <b>V</b> = [appreciate ①] <b>it</b> = 仮目的語 [何を what] → if 節が本来の目的語に相当 <b>if 節</b> = 「もし…なら / …してくれれば」 → if 節は仮定法
文型 III	<b>S+V+(M)</b> ↓ <b>S</b> = [何が what] <b>V</b> = [appreciate ③] <b>(M)</b> = [how, how much, when, why, etc.] → 選択的修飾語句

用例 (KWIC)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. I really <b>appreciate</b> your help. (<i>Passive</i>: Your help is really appreciated.)</li> <li>2. I would <b>appreciate</b> your cooperation in this regard. (<i>Passive</i>: Your cooperation in this regard would/will be appreciated.)</li> <li>3. I <b>appreciate</b> your concern, but there is nothing I can do.</li> <li>4. We're sure you will <b>appreciate</b> the difficulties we have had in the past several weeks.</li> <li>5. I would <b>appreciate</b> it if you would call me again tomorrow. (<i>Passive</i>: It would be appreciated if you would call me again tomorrow.)</li> <li>6. The yen <b>appreciated</b> sharply over the last few days.</li> <li>7. The stock prices <b>appreciated</b> by 10 percent across the board.</li> </ol>
誤用例	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. I appreciate <u>you</u> for your help. → (○) I appreciate your help.</li> <li>2. I would appreciate if you would call me again tomorrow. → (○) I would appreciate it if you would call me again tomorrow.</li> <li>3. I appreciate it if you give me a five percent discount on this item. → (○) I <u>would</u> appreciate it if you <u>would</u> give me a five percent discount on this item.</li> <li>4. I <u>would like to</u> appreciate your help. → (○) I appreciate your help.</li> </ol>

## 【ポイント解説】

1. ①の意味での appreciate は一般に「望外の助力に対する強い謝意」を表明したい場合やフォーマルな状況で使う。通常の謝意の表明は Thank you for your help. で十分である。
2. appreciate は原則として「人」を目的語にとらない。したがって誤用例 1 にみられるような文型は不可。ただし、口語 (略式表現) では I appreciate what you have done for me. のような意味で I appreciate you. ということがある。ちなみに、添付の KWIC データ中には次の 3 つの用例が見られる。
  - 2-1. [...] I want to let you know how much I appreciate you .
  - 2-2. [...] we want you to know how much we appreciate you .
  - 2-3. [...] but believe me , we are appreciating you year round!
3. 文型 I の appreciate の目的語は名詞 (3-1, 3-2) または動名詞 (3-3) のいずれも可。
  - 3-1. I appreciate your help. → 過去、または現在の行為についての謝意。
  - 3-2. I would appreciate your help. → 将来の行為についての謝意 (これは文型 II の if 節が省略されたものと解釈することもできる。if 節の省略に伴って仮目的語の it も省略される)。

- 3-3. I would appreciate your providing us with the above information. →将来の行為についての謝意。
4. 文型Ⅱは将来の行為についての謝意を丁寧に述べるときに使うもので、通例、主節および if 節とも仮定法助動詞を伴う。e.g. I would appreciate it if you would/could provide us with the above information. この場合、I will appreciate... では丁寧さが不十分である。(ただし、Your attention will be appreciated. のような非人称主語の受動態構文ではしばしば will が使われる)。
5. 文型Ⅱでは appreciate のあとの it を抜かさないように注意(ネイティブスピーカーでももこの it を抜かすことがあるが、現在のところ it を入れるのが正用法となっている)。なお、if 節で使う助動詞は主として would または could であるが、I would appreciate it if you would/could provide us with the above information. ような依頼文ではどちらを使っても実質的な意味の違いは生じない。この両者のニュアンスをしいて区別すれば、would はたぶん相手がそうしてくれるだろうと思っていることについて相手の意志を丁寧に尋ね(この場合、依頼の内容が相手の意志次第で実現可能であることを意味する)、could はそれが可能かどうかかわからないが、もしできるなら是非ともそうしていただきたい、というニュアンスになる。以下の例文のうち、5-1 では if 節に would と could のいずれを使ってもよいが、5-2 では依頼(問い合わせ)の内容が相手の意志次第で可能になるというものではないので、明らかに would は使えない。
- 5-1. I would appreciate it if you would/could provide us with the above information.
- 5-2. I would like to know if you could accommodate 200 people (at your hotel) for five days from April 1 to April 5.
7. 用例1の I really appreciate your help. は Thank you very much for your help. の場合と同じように「現在の気持ち」について述べているのであって、「…をありがとうございました」のように過去の行為に言及する場合でも原則として I appreciated your help. とはしない(過去のある時点での気持ちを述べる場合は可)。
8. appreciate (= be/feel grateful for) は話者が主体的に選択する行為・行動ではなく、相手の行為やその結果としてのある事実によって自ずと発生する感謝の気持ちの表現である。したがって、誤用例4のように「…したい」という意味の wish to や would like to を加えて I wish to (would like to) appreciate... のようにはしない(名詞形の appreciation を使って I wish to express my appreciation for something. とすることは可能。ここでは、wish to

は express という行為に対する話者の態度について言及している。これは I wish to thank you for something. のフォーマルな表現である)。

9. appreciate につく程度形容詞は very much のほかに highly, greatly, deeply, really などがある。このうち very much は I would appreciate it very much if... あるいは I would very much appreciate it if... のいずれの位置にも置くことができるが、そのほかはすべて appreciate の前に置く。上記の程度形容詞のうちもっとも頻度の高いのは very much で、highly は Your cooperation will be highly appreciated. のような受動態で好んで使われる傾向がある。really は口語的。deeply, greatly はやや大きな感じがある。また、much を単独で使うことも可能だが、very much のほうが好まれる。
10. ②の意味での appreciate はやや気取った感じがあり、普通は understand を使う。用例3は I understand your concern, but there is nothing I can do. に、用例4は We're sure you understand the difficulties we have had in the past several weeks. にそれぞれ書き換え可能。

## Exercise

【練習問題】 次の和文を英訳しなさい。

- ご助力を感謝します。
- 明日、再度お電話をいただければ幸いです。
- 上記の件に関するインフォメーションをいただければ幸いです。
- ご心配はよくわかりますが、私にはどうすることもできません。